



未来の 城陽産業を語る。

交通インフラや産業など変化が著しい城陽市において、中心的な役割を担う城陽商工会議所の会頭、副会頭、専務理事の皆様にお集りいただき、奥田市長と共に未来の城陽について、大いに語っていただきました。



（奥田市長）商工会議所には商業・産業振興・地域発展に大きな役割を果たしていただき、感謝を申し上げ、敬意を表します。さて、昨年9月に愛称が決定した「サンフォルテ城陽」をはじめ、新名神高速道路の全線開通に向けた動き、東部丘陵地開発、城陽井手木津川線のインフラ整備など、今後ますます利便性が向上し、大いに交流人口の増加が期待されます。この絶好の機会に市の産業振興を積極的に進め、城陽新時代に相応しい、人とモノが行きかうハブ都市を目指したいと考えています。そんな「NEW城陽」を作り上げるために、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。



（木谷部長）城陽の企業の景況感、課題等についてどう思われますか？



（堀井会頭）景気の拡大は戦後最高で、平成31年1月で「いざなぎ景気」を超えました。政府の財政金融政策でお金が動いて、大きな会社は利益を上げています。大手が設備投資を増やせば、中小企業は恩恵を受けやすい。海外拠点への設備投資でも、日本で製造した機械が多く採用される。特に半導体関係はかなり動いているので、業種によっては、売上は上昇しています。大切なのは企業ニーズに合わせて自らを変える事だと思います。深刻なのは人手不足で、仕事はいくらでもあるのに、働き手がいらないと言



城陽商工会議所 会頭
株式会社サンエイ 代表取締役会長
堀井美郎



城陽商工会議所 副会頭
株式会社 城南工建 代表取締役
古瀬善啓



城陽商工会議所 副会頭
株式会社 杜若園芸 代表取締役
岩見悦明



う状態になってきています。しかし、商業系の企業は生産性を高めるのが難しいため、景気の良さを実感されているところは少ないと思います。



(中川副会頭) 会頭がおつ

しやる通り、商業は下降気味で、人手不足と人材の技術力の低下を痛感しています。昔のような徒弟制度も緩くなって、職人の厳しい部分が通用しない。だから、誰でも一定レベルの和菓子が出来る仕組みを作らなければと思っています。商業の分野は今の景気に全然合っていない。材料費も人件費も上がるけれど、商品の価格を上げると売れなくなる。付加価値をお客様に認めてもらえるように、取り組むことも重要だと考えています。



(堀井会頭) バブル以降、

景気はデフレで消費者物価を2%上げるのはなかなか難しい。給料も上がっていないから、安いものばかり買う。さらに欲しいものもない、入ってくる種類も少ない。東京は給料も高く、人が多いから売れるので、地方の商業は本当に厳しいと思います。



(生駒専務理事) 宇治・城陽・

久御山で経営経済動向調査を昨年7月に実施したところ、経営上の問題点として最も高いのが「求人難」でした。業種別では、卸小売業が売上、受注不振、飲食業は人件費の高騰、製造業・運輸業・サービス業・建設業は求人難という結果が出ています。今回初めて実施した、賃金実態調査では、平成29年度

のパート時給平均額994円でした。

建設業は1292円、製造業950円、飲食業932円で、最も低いのは小売業904円です。最低賃金が882円と22円高いだけなので、先程からお話しに出ている小売業の厳しさが反映されているように思います。今後、アウトレットモールの進出により、地元の既存の小売店の時給が、どう変わってくるのかは、非常に気になります。



(木谷部長) 新名神開通を

はじめ、様々なインフラ整備が進んでいますが、これらが産業界にどのようなプラスの影響があると思われませんか？



(古瀬副会頭) 新名神高速

道路全線開通によって、舞鶴、和歌山、神戸、名古屋の中心に城陽が位置しますね。サンフォルテ城陽が立派になり、白坂テクノパークの入居が進んだのも、道路のお陰だと思えます。また奈良と京都の間、本当に五里五里の里なので、道路網が整備されれば、産業的には自ずと発展すると思います。城陽市は商業、工業、流通など全ての分野に対して、便利で働きやすい場所なので、工業や商業がまだまだ集積されると思います。京都は大学や研究機関もたくさんあるので、新しい産業が生まれやすいので期待しています。あとは

生活道路をどう整備するか気になります。働く人が城陽に住みたくなる



ような都市計画をお願いします。

(中川副会頭) インフラが整備され、城陽は暮らしやすい、居心地のよいまちになると思えます。JR奈良線も複線化されて便利になりますが、私は最寄りが長池駅になるので、快速が止まらないと影響は大きいですね。ダイヤ毎に変えるとか、臨時を止めるとか、何かの工夫や施策が必要だと思います。



(古瀬副会頭) 最近自社

で完結させず、協力会社を求める企業が増えているので、工業団地内で特徴ある企業が、集まるべきだと思えます。白坂テクノパークでは、地域に寄与できる防災関係の企業を出来るだけ誘致しています。重機や建設機械のレンタル会社なら、



城陽市と防災協定を結んで、災害時にすぐに役立つブルドーザー、発電機、排水ポンプなどが貸りられる。

すでに台風後に仮設の足場を組める会社に入っていたいただいています。企業によって、市民生活がプラスになることも大切だと思います。



(石見副会頭) 私は個人的

に「いよいよ、街が変わってきたな」と感じており、城陽は産業界、商業、物流など様々なハブ都市になると思っています。企業が増え、人口の増加も期待しますが、昼間の人口がもっと集まる場所になれば、

経済が非常に活性化します。弊社では、就職を機に他府県から城陽に移



り住む社員がたくさんいます。皆、城陽の暮らしに満足しており、まちづくりが進む中で、こういう人が増えていくのではないかなと思います。

先ほど、生駒専務から人手不足の話があり、弊社も案内いただいた企業説明会に出展し、早速雇用ができました。城陽がこれから非常に発展するまちを宣伝することで、雇用も安定すると思うので、しっかりと取り組んでほしいと思います。



(木谷部長) 商工会議所で

は、産業振興・まちづくりには、どのようなビジョンをお持ちでしょうか？



(堀井会頭) 各々の思いは

あります。城陽がこれだけ変わることは今までの歴史上ありませんでした。この千載一遇のチャンスはどう利用するかなんですが、アウトレットモールなら、1日2万人以上の方が、城陽へ来ていただける。これらのお客様をどういう風に市内各所にお招きするか。その仕組みを



考えるために、私たちも行政も市民も皆で知恵と力を合わせなければ

思っています。ただし、お客様が来られても喜んでいただく工夫が必要なので、事業所ごとに相当知恵を絞り、事業所同士が競争して切磋琢磨



城陽市 まちづくり活性部長

木谷克己



城陽商工会議所 専務理事

生駒智史



城陽商工会議所 副会頭
有限会社 松屋 代表取締役

中川憲一



城陽市長

奥田敏晴

地域に寄与できる防災関係の企業を出来るだけ誘致。
市民生活がプラスになることも大切だ。——古瀬副会頭——

するなかで、糸口が見つかるような気がします。将来に向けて頑張ろうと意気込む企業が出てきてほしいし、そういうところを会議所は応援していきま。また事業所同士が意見交換や交流できるプラットフォームは必要だと考えております。



(岩見副会頭) 堀井会頭が

が、既存のアウトレットモールに行っても、その近くのまちに行くことは非常に少ない。だから一番いいのは、アウトレットモールの周りにいろんな商業施設ができることだと思います。交通アクセスでは、JRや近鉄の駅からアウトレットまでに色んな仕掛けがあつて、滞留する仕組みを考えることが大切です。アウトレットモールができたけれど、人が多くなつて、周辺道路が渋滞して、それだけで終わつたら困るので、会議所として大きな課題だと思います。



(生駒専務理事) 現在、城

の会員様がいて、業種的にも様々で、アウトレットモールに関わる会員様だけでないことも意識しなければなりません。会議所への一番多い相談案件は、金融や融資など経営相談で、この基本的な部分について、しっかりと役に立つ会議所になりたいと考えています。将来のビジョンとして、会員企業様の事業承継の問題にしっかりと取り組んでいきたいと考えてい

ます。また、21世紀型のビジネスモデルはどうなるのか非常に懸念しており、中国ではキャッシュレス化が進んで、現金を持たずに外に出る若者もいるそうです。そういう時代が日本でも起きた場合、商業関係がどのように変わってくるかを想像すると不安な部分もあります。先ほどから出ている人手不足の問題についても、新卒の大学生は大手企業優先になつて、中小零細企業まで、新卒者が回つてこない。これは就職ではなくて「就社」というか、会社に就くという感覚だと思ひます。「中小企業でもきらりと光る尖った企業があるよね」というようなことを、ジョーカーなどを通じて知らしめるなど、個々の会員企業の魅力を伝える仕組みづくりが必要だと思ひます。



(木谷部長) 昨年8月に策

定した「京都城陽産業かがやきビジョン」の3つの重点プロジェクト「人材マッチングへの取り組み」「産業連携ネットワークの構築」「新産業の創出」についての評価、今後力を入れて推進するプロジェクト、そのための施策など、考えをお聞かせください。



(生駒専務理事) 重点プロ

ジェクトで、実際に事例としてうまくいっているケースがあります。宇治と城陽の商工会議所と久

御山商工会で広域連携を組んで、工業視察研修会を実施しました。視察後の懇親会の席で、互いの会話の中で何気なく話した悩みごとが共有する問題点として解決することもあり、日頃から色々と交流する機会があれば、人材マッチングや産業ネットワークなどが生まれてくるのかなと思ひます。最初は難しく考えず、純なものからでも全然大丈夫なのかなと思ひます。



(堀井会頭) 今、色々と話

について、検討したいと思ひていたんですが、詳しい話を聞いてみると会議所のできる範囲は限定的なんです。会員企業から外国人の実習生の受け入れを検討しているという話があつたら、そこに繋ぐ程度のことしかできない。宇治・城陽・久御山で外国人実習生の研修会や勉強会の企画をはじめ、他に何ができるか検討したいと思ひています。



(生駒専務理事) 全国には

はありますが、そこでは管内に多くの外国人雇用企業があり、専門職員を入れながら対応しているため、当会議所が認可を取って実行するのは厳しいと思ひます。外国人実習生を受け入れた企業で話を聞くと、従業

員規模によっては外国人を受け入れる人数に限度があるそうで、様々な問題があることは聞いております。



(岩見副会頭) 弊社では5

年位前から、大学新卒を募集するのに東京の企業説明会に参加しています。我々も京都府城陽市にある企業なので、京都のイメージを強く出したら、反応が良かった。京都ブランドが就職を決めた一因でもあつたと思ひます。今の城陽は交通アクセスが良く、今後大いに期待できる。そういう意味では他の地方に比べて有利だと思ひます。城陽は京都・大阪・奈良にも近くて、自然も多くて環境もいいし、住むのも快適なので、それを魅力に感じて、城陽の企業に就職したいという学生や人材はいると思ひます。



(堀井会頭) 人口がどんど

ん減つていく中で、大きい会社だけが来てもダメだと思ひます。やはり地域を考えたら、商店街や小さな個店に賑わいがあつて、「良い街やなあ」と思ひます。そのためにも商工会議所は、元気のある、やる気のある、知恵を出して、少々リスクを取つてもやっていこうという方を応援したい。また、商業と工業

がお互いにバランスよく両立して、初めてまちが成り立つていくと思ひます。しかし工業関係は、バブルが弾けてから20・30年の間で半分ほどになつてるんです。全国で最盛期には40数万社あつたのに、今は20万社ぐらいいかない。その分、商業関係が増えているんですね。工業関係の企業もあるまちの姿がいいなと思ひ、白坂テクノパークを見ると、ああという工業団地は非常にいいなあと個人的に思つています。行政におかれても、ぜひ小さい事業所を応援してほしいとお願ひします。



(古瀬副会頭) 城陽市の都

市計画は今のところ、非常に上手にやられていると感じています。ただ、今まで城陽はあまり知られていなくて、「顔がない街やなあ」というのが本音だつたんです。でも今後は、アウトレットモールが核になるでしょうが、いろんな産業が城陽から出てくると思ひます。そのいろんな産業が、地元の企業を出来る限り使つていただくことで、共存共栄を図ることができると思ひます。城陽にはJRもあれば近鉄もあり、京田辺市に行けば学研都市線もある。非常に利便性の良いところではあるんですが、城陽の顔になるような駅や駅前のあるまちづくりをしてほしいですね。駅前に赤ちようちんが出た料理店ができて、仕事帰りに一杯飲んだり、同僚と一緒に飲みながら



(中川副会頭)

ビッグプロジェクトを成功させるには、もっと城陽の魅力を発信し、城陽への入口・出口を意識すべき。

——古瀬副会頭——

京都の城陽のイメージを強く出すと好印象になり、他府県から城陽で働きたい、住みたい人は増える。

―岩見副会頭―

会社の話を色々したり、アウトレットモールに勤める若者と出会っていろんな話ができたり、そういう場所が欲しいなと思います。ハード面ばかりじゃなくて、ソフト面も充実することで、賑わいができる。そういう楽しいまちを考えていただければ、ありがたいなと思います。



(中川副会頭)今の城陽には、色んなビッグプロジェクトがあり、私たちも賑わいを実現できるように頑張りたいと考えています。お客様は、日々の暮らしの中で、華やかさや賑やかさを一番求めていらつしやるので、アウトレットモールはおお客様の欲求を満たしてくれると思います。この年末年始に隣りの宇治には、大勢の観光客が来たそうなんです、その方々は城陽には来なかった。宇治と城陽では、観光客の数、滞在時間、買物などの消費金額など、格差があります。例えば宇治でコイン駐車を経営している方は、4〜5台の広さで月50万円売上げるそうで、それだけ流入人口があるだけの魅力が存在する。だからアウトレットモールができて、宇治との往復で終わってしまうのではないかと懸念があります。だから、城陽にメリットがあるように入口・出口を考えて、城陽で滞在してもらえぬ施策をしっかりと計画して、導線も用意して、実行してもらいたい。また、ご飯をここで食べた

ら、遊びに立ち寄ったらなど、いろんな情報の提供が、まだまだ少ないと思うんで、発信力を強化してほしいと思います。



(岩見副会頭)弊社の話しになって申し訳ないですが、

今までは、生産したものを地元の方に卸売り、小売りをしていました。が、地元以外の方にもどんどん売っていかうと取り組んでいます。インターネットでの販売も力を入れており、全国から注文があるんですが、まだまだ城陽の認知度が低い。これは城陽の情報発信ができていないからだと思います。今はインバウンドで京都市内のまちが活性化しています。大勢の外国人観光客が京都に滞在するから、ホテルも次々に建設されています。実は、弊社ではホテルのロビーなどに植物や花を活ける新しい事業がスタートしているんです。これは、京都市内に人が集まったことで、経済の流れがやって来たわけなんです。これと同じように城陽にいても観光による仕事の増加は見込めると思います。さらにいよいよ、アウトレットモールができて、城陽への直接的な流入人口はもちろん、交流人口や定住人口の増加も期待できます。経済面では確実に良い影響が出て、城陽にヒト、モノ、カネが集ま

るわけなので、これをきちんと受け入れられる体制を作らなければなりません。具体的にどうするのかを早く考えていきたいと思います。個人的に私はとても期待しています。



(生駒専務理事)私が思う商工会議所の活動は、

ゆるゆるの営業というか、経済、ビジネスを活発にすることにあります。行政の場合は、市の区域がありますが、販売に区域はありませんので、城陽市内の消費者だけでなく、近隣市町の消費者が幅広くお金を使っていただければ良いという部分があります。ただ会議所事業は、城陽が拠点になります。市外の事業者の方々とも連携いただける仕組みも考えていきたいと思っています。すでに、会頭の思いもあって、会員情報を紹介する「城陽日和」を城陽市内だけでなく、隣接する宇治市の一部にもポストイングを行いました。今までにないお客様が城陽の会員店で買物をしたり、遊びに来られたりすることで、新たな潤いができる。さらに南山城全体に「城陽日和」を配布するというようなことになれば、やはりまた全然違った動きになると思います。もちろん、費用の問題や、仕組みづくりを考えなければなりません。情報発信であればペーパーだけでなく、アプリを制作して、消費者にダイレクトで情報発信するのもいいでしょう。このジョーカンもスマートフォンで読めるようにするなど、形態をどんどん変化させて、多くの消費者に簡単に届く手段を模索し、私たちの充実した情報を発信していきたいなと思います。



(奥田市長)堀井会頭をはじめ、副会頭、専務の皆様から、それぞれの立場で貴重なご意見を頂戴したと感じています。それぞれの考え方によって商工会議所のスタイルができ、これからのまちの在り方に大きな影響を与えてくださると、大変心強く思っています。城陽市に携わる皆様が自分のまちのために頑張っていたことで、「城陽市が輝いている」「産業界が輝いている」となることが一番大事ではないかと思っております。そのためにも、躍動する、活気がある要素がまちづくりに重要であると感じました。市の施策の根幹は、市内事業者にしっかりと儲けてもらうこと。これは引いては税収増につながる。そのような考えの下で施策を展開していきます。ベッドタウンだった城陽市は、産業で活況のある新たなまち「NEW城陽」を目指しています。非常に貴重なご意見を頂いたと思っております。これからも、城陽商工会議所とは連携を密にしながら、産業振興に取り組んで参りたいと思います。本日はありがとうございました。

城陽の枠にこだわらず、近隣市町と交流・協力して城陽に人を呼び込み、城陽をもっと盛り上げていく。

―生駒専務理事―